

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	25702000325
法人名	財団法人 豊郷病院
事業所名	彦根市グループホーム ゆうゆう
訪問調査日	平成 19 年 12 月 6 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 18 日
評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2570200325
法人名	財団法人 豊郷病院
事業所名	彦根市グループホームゆうゆう
所在地	滋賀県彦根市川瀬馬場町1015-1 (電話) 0749-28-7662
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地
訪問調査日	2007年12月6日

【情報提供票より】19年11月1日事業所記)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年2月12日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤	7人, 非常勤 6人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	19,800	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	— 円	昼食	— 円
	夕食	— 円	おやつ	— 円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.4歳	最低	68歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊郷病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは住宅地域の一角に位置するが、北隣には商店や銀行、そしてスーパーマーケット、西側には商店と買い物に便利のよい処にある。経営母体は豊郷病院で彦愛犬地域で数多くの介護施設を運営しておりそれらの豊富な経験から蓄積されたケアの質は高い。官設民営で同敷地内のデイサービスが併設されておりホーム利用者はデイサービス施設も上手く利用されて日々の生活には好刺激を与えていると感じた。新たな取り組みとして第三者委員会を設立してホームが行うケアの質の問題点提起や意見、提言を出される事をねらってスタートをさせたが、これからの活動に期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価における改善課題の指摘は無かった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価を行いその結果の話合いを行った。3つの課題を抽出してそれらの改善課題をこれから改善活動に向けていく。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は行政、医療関係者、介護関係者、地域と多岐なメンバー構成で2カ月に1度の頻度で行っている。ホームからの報告と同時に委員からの意見や提起事項も出されている。それらの課題はホームで検討を行っている。また利用者の老人会加入の依頼を地域代表に課題として預けており、よい結果を待っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見、苦情の窓口はホームに掲示し印刷物にも提示している。家族がホームへ訪問する機会を多く設定しており(利用料納金、主治医への付き添い、季節毎の衣料の交換などなど)それらの機会に利用者の生活状態報告と同時に家族の意見、苦情などの聞き取りをしているが苦情は出ていない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会しており、町内一斉掃除(年2回)、納涼祭などに参加している。近くの保育園、幼稚園からイベントには招待を頂き参加している。地域のボランティアの受け入れもしており地域との交流の頻度は多い。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の作成は設立時の全職員で解り易い言葉でまとめられている。人権尊重、思いやり、やすらぎと楽しみ、家庭的な雰囲気、地域交流、社会的に開かれたホームになるようにと、人が生活していく上での基本的な課題を網羅された理念が創りあげられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示されている。理念は昼時に毎日復唱して共有化に努めている。また利用者へのケアの問題事例となった事項を取り上げ理念の理解と共有化を図っている。		
カンファレス					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しており自治会主催の(年2回)町内一斉掃除や納涼祭に参加している。近くの保育園、幼稚園からイベントに招待があり参加しており地域のボランティアも受け入れ交流に努めている。地域の人々を対象に介護教室を開き、ホーム便りも配布している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価の意義の説明をした上で、自己評価を行い、話し合いの中から3つの改善課題を抽出した。それらの課題はこれから改善活動に取り組んでいく。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは市職員、病院関係者、介護関係者、民生委員(自治会代表も兼務)など多岐に亘って委嘱している。会議は2カ月に1回の頻度で行っている。自己評価の結果やホームの近況報告と共に委員から意見を求めるようにしている。それらから出された課題はホームの職員会議の課題として取り組んでいる。		地域の委員は自治会長、民生委員、老人会長など夫々の役職の立場で運営推進会議メンバーに参画して頂き、地域の人の参加が望めるよう配慮されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から依頼の見学や研修を受け入れている。グループホーム主催のイベントは市にも参加の呼びかけをしている。また施設管理上の課題などについて市に相談に行っている。		介護相談員の受入を平成20年より受入を行うとのこと。定期的な受け入れを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りは年4回発行している。家族の訪問頻度が高くそれらの機会をとらえて利用者の生活状況や小遣い記録などを家族に報告している。利用者の状態変化時は都度家族へ連絡している。		平成20年からホーム便りをホームページでも発信するように準備中との事。見易く親しみやすいホームページを作られる事を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に利用者の生活報告や意見・要望を聞くなどの話合いの時間を持つている。苦情相談窓口の明示や意見箱を設け、苦情の出やすい配慮をしているが現在ではできていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力抑えるために職員個々に自己開発目標を置き、それらに対するチャレンジや働き甲斐と職責の責任感が浸透するように努力している。止むを得ず異動が生じた場合は引継ぎ期間を長く取るように配慮している。職員異動時には家族へも連絡し同時にホーム便りにも掲載して周知に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の職階に応じた育成計画はある。その計画に基づき外部研修の受講を消化している。グループホーム部会の交流会や交換研修にも職員交代で参加しており、参加者には報告書の提出を求め全職員に回覧して周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	彦愛犬地域のグループホーム部会の協議会(隔月開催)、交換研修には必ず参加している。管理者は認知症専門指導師で研修の受け入れも積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者の家庭に訪問し、利用者が馴染める努力をしている。また入居前に利用者や家族の見学、体験入所(最長1ヶ月)も受け入れている。入居が決定された時は入居前の他施設のケアプランも参考にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴から利用者の特技や趣味の把握をし、それらが日常生活に活かせるよう配慮している(書、手芸、塗り絵、音楽など)また伝統的な風習や保存食などの聞き取りや作り方の指導も仰ぐ事が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用予定者には生活歴、趣味、思考など家族や利用者から聞き取りをしている。意思確認の取りづらい利用者には入居前の生活を家族から情報を入手し、生活の継続になるよう配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はセンター方式を採用。利用者、家族、主治医、訪問看護師にも意見を求めながら全職員で意見交換をしながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3カ月毎に行っており、毎月のカンファレンスでも話あいをしている。状態変化があったは都度見直し検討を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師による医療連携を行っている。利用者の緊急時や家族の付き添いが無理な時にホームで送迎している。利用者の買物の付き添い、家族がホームでの宿泊などにも対応している		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は入居前の主治医に入所後も診て貰っている、家族の送迎を基本としている。救急時や家族の付き添いが無理なときはホームで対応している。状態変化時にはかかりつけ医に連絡を取り適切な対応に努力している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームに於ける利用者の看取りも経験している。グループホームの方針を家族、看護師を交えて話し合い、利用者や家族が安心出来るように話しあい、支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報、人権、プライバシーなど、職員が交代で全員外部研修を受けている。利用者の羞恥心などの行動には細かな対応に職員は心がけている。個人情報の取り扱いについてA4版3ページに亘り記載され家族にも説明し渡されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	書道、手芸、買い物、塗り絵、散歩などの生活支援をしている。食材の買い物、調理、配膳、後始末当の手伝いなども取り入れ能力に応じて参加できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞き、相談しながら決めている。食材の買い物、調理、盛り付けなどに参画してもらい楽しむ機会を作っている。朝食はパン、ご飯など個々の希望に対応している。食材の買い物は季節を感じる材料を取り入れる努力をしている。食事は職員と共に語りながらしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間、回数は利用者の要望に応じている(20時まで対応)。入浴嫌いの人には温泉に行こうと言って施設内のデイサービスの広い浴槽を利用するなどの対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味、特技などから夫々に楽しみごとを個別対応で過ごせるように(散歩、買い物、趣味の書、手芸、塗り絵、音楽)などなどの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の生活に散歩の取り入れと共に地域の文化祭、市美術展などの鑑賞などそれらの機会は逃さず外出している。外食も月に1~2度の頻度で行っている。ホームの近く(300メートル程)にスーパーマーケットの買い物の支援、季節のバラ、コスモス、桜、もみじ狩りなどなど外出支援は多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関の右脇は調理場、左脇は事務所の配置となっており利用者の外出などが常時見届ける出来る設計となっている。活動時間帯は施錠していない。夜間になると利用者が施錠してくれているが宿直者がホーム内、全ての施錠をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回行っている。地域にも呼び掛けをし、利用者も避難訓練に参加している。救急救命措置は全員受講している。		緊急時の応急措置講習を平成20年度に計画されているが、これらの訓練は数多く行い現場に遭遇した時に慌てることなく役立てられるように期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好、食アレルギー、咀嚼力などは把握できている。栄養摂取はバランスを配慮している。利用者毎の食事量や水分確保についても日々の記録をして管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングで吹き抜け畳コーナーも広く開放感を感じる。廊下も広くホーム内各所に30号ほどの絵画や彦根屏風などの掲示(寄贈)がされている。季節を感じる花やクリスマスツリーが豊かな雰囲気を漂わせている。吹き抜けの天窗には軟らかい日差しになるように和紙の貼り付けなどの工夫もされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いこまれ家具や仏壇が持ち込まれている。趣味の作品や編み物、書やホームでのスナップ写真などが壁やタンスの上に飾られ利用者の好みや生活態度がうかがえた。		